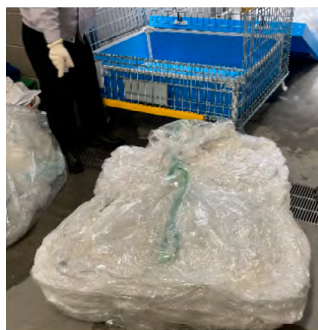


国土交通大臣賞 <small>「事業所・地方公共団体等」分野</small>	受賞者名 前田建設工業株式会社 東明興業株式会社
	取組の実践場所 東京都豊島区、千葉県柏市、東京都港区、東京都中央区、千葉県野田市、 埼玉県所沢市
	受賞テーマ 「 廃プラ専用圧縮袋 」の活用によるリサイクル率の向上と運搬時CO ₂ の削減 ～ 東京建築支店5作業所における試行結果の報告 ～

受賞者の取組みは、圧縮用の軟質プラ（塩ビ／非塩ビ）と、マテリアルリサイクル用の硬質プラを分別し、分別した軟質プラを専用袋に入れ、掃除機で吸引することで容積を約1/3に圧縮して搬送効率を向上させるものである。今回の試行により、リサイクル率87%の内訳（マテリアル：ケミカル：サーマル＝24：17：59）を確認できた。また、分別と圧縮により、運搬時のCO₂とコストの削減、並びに処理コストの削減を両立した。



専用袋（1m³）セット完了→圧縮後の荷姿（晴海再開発5-5作業所）

2022年4月1日からプラスチック資源循環促進法がスタートし、これまでのリサイクル率「1-最終処分率」、「目標値90%」、「廃プラ分別ルール」の見直しが必要となった。まず、分別ルールを①軟質／硬質（塩ビ／非塩ビ）②塩ビ管③その他個別品目に変更したが、実施状況（リサイクル率）の把握が課題となっていた。同取組みは「廃プラ専用圧縮袋」を利用することで、リサイクルの詳細を把握するとともに、作業所・処理施設ともに分別のインセンティブ（処理費の低減）を提供するものである。

1) 試行における確認事項等

- ① 分別状況、圧縮袋の活用状況を確認し、実態の把握・改善策を検討する。
- ② 圧縮袋の耐久性（転用可能回数）を確認する。
- ③ 環境負荷の削減とコスト低減についての定量評価を行う。

2) 試行結果の活用

東京建築支店5作業所での試行結果をとりまとめ、社内ルールを改訂し、圧縮袋の展開を検討する。また、試行結果を日本建設業連合会の副産物部会、建設廃棄物共同組合等と共有し、業界としての展開方法についても検討していく予定である。

今回の取組みは、前田建設の「地球への配当[※]」を活用している。前田建設が圧縮袋を1,000枚先行発注し、初期ロットを増やすことで、東明興業の圧縮袋の製作コストを抑えるとともに、作業所の費用負担を軽減した。

※ 同社は地球を大切なステークホルダーと位置づけ、2010年より連結純利益の2%を環境保全活動に拠出している。

今回の試行結果を分析し、改善策を検討するとともに、他の処理方法や2次処理先を含む処分業者の対応状況等を確認しながら全国の作業所への展開を予定している。

また、課題である“廃棄物処理のスコープ3（カテゴリ12）”の算定についても、業界として標準化を検討する予定である。